

## 日本薬科大学「漢方アロマコース」にて講義

2017年9月10日(日)日本薬科大学のお茶の水キャンパスにおいて、  
一般用漢方製剤委員会の長島義昌委員長が講義を行った。

日本薬科大学では、  
文部科学大臣認定「職業実践力育成プログラム(BP※1)」  
漢方アロマコース※2を開講しており、  
OTC漢方薬に関する講義の依頼が日漢協に入り、  
講師を派遣したものである。

講義は、休憩10分をはさみ、  
前半は総論そして後半は各論、  
各1時間の二部構成であった。



※1 BP : Brush up Program for professional

[【文部科学省HP参照】](#)

※2 漢方アロマコース : 2016年4月から開催されており、漢方に加えて幅広い補完医療の現状を体系的に学ぶことができる。

[【日本薬科大学HP参照】](#)

『そもそも漢方とは？』と題された前半では  
 「漢方医学はどここの国の伝統医学でしょうか？」というクイズから始まった。  
 漢方医学は、古代中国の漢の時代に集大成された医学が、  
 日本に伝わり独自に発展した日本の伝統医学という説明から  
 「漢方医学の特徴」「漢方医学と西洋医学の違い」「特に漢方治療が有効な症候」など、  
 漢方医学の基本に沿って講義が進んだ。

また、国立衛研が制作した『安全に使うための一般用漢方処方の確認票<sup>※3</sup>』の説明のほか、  
 鍼灸治療の基本となる「三陰交」や「合谷」といったツボの話にもふれ、興味深いものであった。

※3 安全に使うための一般用漢方処方の確認票：  
[【日漢協HP参照】](#)



【長島 義昌 委員長】

『漢方薬とは？』と題する後半では、  
 漢方の診断でとらえる  
 「血虚」「瘀血」「気虚」「気滞」「水滞」などの説明と、  
 それぞれの治療に使用される漢方薬が紹介された。  
 また、病態に絡め舌診の説明では、  
 様々な舌の写真も示し  
 漢方診断や漢方薬の特徴がわかりやすく説明された。

OTC漢方薬の特性として、処方数の多さ、  
 エキス量の違い等についても紹介があった。

当日は、定員50名を超える聴講者が参加し、  
 真剣なまなざしで集中して講義に聞き入っていた。

10月29日(日)には『生薬の流通』と題する  
 日漢協生薬委員会の浅間氏による講義が予定されている。